

テーマ

日韓社会にみる食物語彙の研究

適用
分野

民俗学、文化人類学、社会学、
歴史学

研究
名称

日本社会における韓国の食物語彙

氏名
所属

金 泰虎 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

日韓では近代国民国家成立期以降、従来の前近代的交流ではなく人々が行き交うようになり、食文化が相互の社会に伝わって食物語彙も定着する。

とりわけ、近代国民国家成立期以降、日本は韓国に対する影響力を強め、やがては植民地支配に及ぶ。そこで、日本人がコリア半島に移り住み、日本の食文化や食物語彙が韓国に伝わる。一方、韓国から来日して日本社会に在住する人々が増える中、韓国の食文化、つまり韓国の食物語彙は日本に流入するようになる。

日本社会に韓国の食物語彙が流入し、日本の書物や辞書に掲載されることは、日韓社会の間における交流の実態を語ることでもある。つまり、日韓の交流が盛んであれば、韓国の食文化が日本に一層流入する機会が多くなり、一般的傾向としては書物への掲載も多くなる。

この日韓交流と食物語彙の辞書への掲載が比例して行われていたのかを追究することは、食文化の交流、つまり食物語彙を通じて逆に日韓交流の実態まで掴むことができる重要な手掛かりになる。

●研究内容

近代国民国家成立期から今日に至るまで日本社会における書物のなかに紹介されている韓国の食物語彙と日韓交流の推移を照らし合わせ、日本社会に韓国の食物語彙が市民権を得ることを追究する。

とりわけ日本社会に韓国の食物語彙を紹介する初めての書物と言える近代国民国家成立期の『日本支那朝鮮西洋料理』（明治20年）、そして戦前に発行された辞書を踏まえた『広辞苑』（第1版～第6版）と『大辞林』（第1版～第4版）に掲載されている韓国の食物語彙を分析の対象とする。

そこで、『広辞苑』と『大辞林』に韓国の食物語彙が掲載されるようになる要因、また日本社会に通用はしているが、掲載されていない食物語彙についても網羅をし、社会に広まっていることについて分析を行う。

韓国の食物語彙を日本の辞書に掲載することは、日韓の間における社会事象と深い関係があると考えられ、照らし合わせて分析を行うことは欠かせない。その中で日本の辞書が制定している外来語、韓国の食物語彙との関係、日韓の交流も交えて日本社会に定着している食物語彙を位置づける。

キーワード

食物語彙、広辞苑、大辞林、外来語、食文化

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究